市民福祉常任委員会のテーブル１における参加者の主な意見等

番号	内容
1	・婦人会や民生委員、町会の活動を行っている。 ・震災に関連して、要支援者名簿があるが、どのように扱えばよいのか不明確である。もっと市からの声掛けをお願いしたい。 ・婦人会が高齢化しているが、若い人は無関心であり、継続が難しい。よい活動をし、広報をしてもなかなか見てもらえない。このままでは婦人会はなくなってしまう。若い人にも興味を持ってもらえるようにネーミングや行事の変更も考えなければいけない。 ・町会の活動では、つながりを作るために連絡を取りたいが、個人情報保護の関係から情報をもらうことができず、思うように活動できずにいる。 ・学生の雪かきボランティアについて、雪の中、学生がどうやってその現場まで来るのか。住民が自主的に動けるようにしていかなければいけない。
2	・子育てについて経済的な面での支援が必要であり、子育てを最優先するような施策を取っていくべきである。 ・地域コミュニティーについて、他の地域から見れば金沢市は活動が盛んなほうかと思うが、各校歌の運動会やお祭りなどはなくしてはいけない。こういったものから地域の市民意識を醸成していかなければいけない。 ・町内会が必要なのか、必要なのであればその目的はまちづくりなのか、防災なのか。町内会の原点に立ち返って考えていく必要がある。 ・今回の震災は地域コミュニティーのあり方を見直すチャンスと捉えることもできる。 ・金沢市には学生が多いので、学生が活躍できる場を増やしていくべきである。また、外国人についても、阻害するのではなく地域のコミュニティーの中に入れていかなければいけない。 ・若い人を引っ張っていけるような若いリーダーの養成が必要である。
3	・震災について、福祉避難所がない。弱者を誰がサポートするのか。また、震災に限らず、障害者への支援についてももっと目を向けてもらいたい。障害者の保護者が高齢者となった後のフォローなどが必要である。 ・集合住宅に住んでいるが、隣同士の交流がない。震災当日は、隣近所への関心がうすいと感じた。 ・町会活動について、一人に頼むのではなく複数制を導入することで参加者は増えた。ただ、参加するのは高齢者ばかりで若い人は参加しない。
4	・町内の役職について、高齢で辞めたいという人が出てきて、現在、人が足りていない状態。一人ずつお願いに回っても断られる。まずは、手伝いだけや、仲の良い者で一緒に来てもらうなど、どうにか参加してもらえるように工夫している。

市民福祉常任委員会のテーブル２における参加者の主な意見等

番号	内容
1	・防災士を10年ぐらいやっている。災害時に金沢市から犠牲者を出さないまちづくりが重要である。また、観光客を安全に返す必要がある。 ・発災後24時間以内が一番重要である。24時間以内に何ができるかしっかり考えるべきである。 そのことが、災害が起きてもそれ以上拡大させないことにつながる。 ・工務店を育成すべきである。災害時でも重機があればいろいろなことができる。公共事業についても地域性を考慮して発注すべきである。 ・市内全域で16,000戸ある空き家を地域のコミュニティーの中心地として使えないか。 ・組織論で行くと話が進まない。ある程度人数が集まり組織だたないと市からの助成がないが、本当に大事なのは人数ではなく質である。
2	・月１回地域でいろいろな勉強会をしている。文学や政治経済などテーマを絞らず、２人以上参加者が来れば開催するようにしている。そんな会議に若い人を巻き込みたい。加えて、知識を持っている人が第一線から離れているので、この人を活用して会議を活性化させたい。 ・老人会という名前だと誰かに助けてもらって運営するというイメージがついて回る。名前のイメージは大事である。
3	・婦人会は成り手不足であり、校下によっては必要かとの意見もある。婦人会の存在意義が求められている。 ・自分の校下には山も谷も川もあるので、まずは自分の住んでいる地域にどのような災害の可能性があるのか知ってもらうところから始めている。 ・婦人会同士はネットワークが広いので、知識はないかもしれないが知恵はある。
4	・婦人は基本的に家にいるので、何かあったときにはすぐに動ける。声掛けをしてもらえれば活動できる。 ・婦人会は町会単位で活動しているが、市全体で考えると数は減ってきている。中には校下の婦人会に属していなくても町会の婦人会で活動しているところもある。 ・公民館から補助が出る婦人会もあれば、何の補助もない状態で活動せざるをえない婦人会もある。婦人会が属している状況に応じて市内様々である。

文教消防常任委員会のテーブル③における参加者の主な意見等

番号	内容
1	・10年後には今よりもっと世の中が変わっていると思う。お金がデジタル通貨になって、自動運転車もあり、３Ｄプリンターで住宅も建てられる。しかし高齢者はそれについていくのは難しい。そういったことをどうカバーしていくか考える必要がある。 ・空き家問題があるが、金沢市が買い取って市営住宅にする等、今後どうしていくべきか。
2	・中学生の部活の地域移行について、学びを大切にするか、競技競争を大切にするかをきちんと考えなければならない。 ・コロナ禍でも文化は後回しにされたが、文化は非常に大切である。私は親子で生の舞台を楽しんだり、遊びを一緒につくりだしたりする活動をしているが、文化に携わる人たちをどう支えるか、考える必要がある。 ・金沢マラソンではボランティアリーダーが集まる会を開き、今後どうすればよくなるのか、議論する機会を作ってあげればよい。 ・オーバーツーリズムの問題は、行政が金沢に住む人をもっと大事にするよう頑張ってまちづくりをするとよい。
3	・婦人会活動を行っているが、高齢化も進み、次世代への継承が難しくなってきている。 ・地域活動はとても大切であり、しっかりやっている町会もあれば、あまり活発にはやっていない町会もある。 ・金沢市として、町会活動を活発にさせるため、組織化を進めるべきである。
4	・金沢マラソンは、現状は行政が運営主体だが、今後の10年は次なるステージとして、市民全体で運営する、市民の手による大会に変えてはどうか。 ・ボランティアリーダーは数年に渡り継続して参加する人が多く、独自の知見を蓄えている。しかしボランティア同市のつながりが無く、さらにその知見を行政へ伝える術もない。ボランティアの知見を運営に活用してはどうか。 ・市内の広範なエリアを規制する以上、経済効果を最大化すべきだが、地元経済界から公募委員を募り、より多くお金を使ってくれるよう策を考えてもらえばどうか。 ・地元の人が沿道でランナーを鼓舞しているが、それらの声を取り入れれば、もっと盛大な大会になるのではないか。 ・結ネットはお年寄りでも使っている人はいる。若い人でも使っていない人も多い。 ・マラソンの研修会は東京マラソンのボランティアグループの人にしてもらっているが、今後は金沢マラソンのリーダー経験者が講師をしてもいいかもしれない。
5	・今金沢は伝統だけで観光客が来ている状況である。10年後を考えた場合、都市の魅力を毎年見直す活動が必要であり、その中でも文化は一番大切である。 ・部活動の地域移行は、先生たちがもっと働きやすいようにどうしたらよいかを考えていかなければならない。 ・ボランティアリーダーについて、仕事でリーダ―等をやったことがない人はなかなか難しいので、金沢市で予算をつけてリーダー研修会を行えばよい。

文教消防常任委員会のテーブル④における参加者の主な意見等

番号	内容
1	・金沢の子どもたちは、価値観の振れ幅が非常に狭い。 ・生き方における自由と選択のあり方について、しっかりと教育をしていかなければならないのではないか。 ・学びの原点に触れる場の機会をもっと増やしてほしい ・子どもたちを取り巻く環境や社会の多様化の中で、改革が進まない学校という環境にいる子どもたちが取り残されないようにしてほしい。 ・子どもの不登校対策については、教育委員会の所管ではなく市長直轄にするとともに、これまで全て全日制の中学校に通信制を導入してはどうか。また、民間との連携も課題解決の鍵を握るのではないかと思っている。
2	・タブレットの持ち帰りに対する課題が喫緊の課題であるという議会だよりが載っていたが、学習用端末であるタブレットについて、子どもや保護者がルールを守り、健康面に配慮し、トラブル防止に取り組んでいくための体制がまだまだ脆弱ではないか。学校と家庭の安全と健康をどのように守っていくのか、方向性と具体的な政策を確認したい。 ・学校の懇談会に参加すると「宿題の前にゲームをやり言うことを聞かない。」「YouTubeなどを見たり寝る時間が22時、23時となかなか寝なくて困っている」など、しつけや健康面の悩みを持つ家庭が多い。タブレットの付き合いと自律できない家庭との関係性についてどうコントロールしていくのか。
3	・人材育成という観点から、勉強、塾、正解解答ばかりを求める知識偏重教育はあまり意味はなく、人間形成や生活力を身につけるためには、自由な発想、問題発見・解決能力、人と人の関係をどう保っていくか、また、グローバル・多様性社会というものを重視した教育が大事。 ・小さな失敗にはこだわらず、また何度でもやり直せる社会の構築が大切である。
4	・13年前、当時荒れていた中学校の教室に花を１輪飾るという活動により、不登校の生徒が学校に出てくるようになり、また生徒だけでなく先生も心が癒やされるなどし、その活動が華道部の活動にまで発展している。このボランティア活動の取組が、現在、地域活動移行のモデル校となり、文化庁から予算が出て癒やしの花を届ける取組を行っている。人は花など美しいものを見ると心が癒やされ情操が高まるので、今後は地域の畑に種を植えてみんなで育てていくまちづくりを行うなど、金沢市と学校と保護者が連携した花と緑のまちづくりの施策を推進していってほしい。
5	・43年ぶりに道路交通法が改正され、信号のない横断歩道は手をあげて渡らなければならない。子どもたちは学校の校門の前の横断歩道は手をあげて渡っている一方で、ほかの場所では果たして手をあげて渡っているのかどうか。渡る意思表示をしっかり行わないと交通事故はなくならない。そうした意味では交通安全教室をしっかりと行ってほしい。 ・自転車が２～３列になって走行している生徒がいるが、非常に危険である。しっかりと交通マナーを守るための交通安全教育を10年後には義務教育化してほしい。もし義務教育化ができないのであれば、みなし公務員である自動車学校の教官が自転車運転のルールを指導してもよいと思う。家庭、学校、地域が連携して交通ルールを守っていけば交通事故は減ると思うので、しっかりと推進してほしい。
6	・中学校の歴史教育について、戦後歴史教育を３学期の最後に教えているが、一番最初に教えないとだめである。 ・見守り隊をやっているが、子どもは低学年のうちは目を合わせてあいさつするが、学年が上がるにつれて目を合わせなくなる。あいさつがやはり一番大事である。